



教会テーマ『勇気と寛大な心をもって出かけて行きなさい』(教皇フランシスコ)―「ミッション2030」―福音を伝える

喜びを分かち合う共同体に成長する

カナダにしばらく滞在していた時に、休みの日は散歩の後少し遠回りしてストリートカー（市電）で帰るのが好きでした。車窓からは人々の暮らしが見えてきます。喜びも混沌もそこにあります。車内では乗り合わせた者同士他人なのに、連れている犬がかわいいとか、当地ではほとんど着ている人がいないワンピースを着た人が乗り込んだらみんなで「きれいだね」「どこに行ってきたの?」と尋ね、そこから会話が始まります。

いろいろな印象的な光景を目にしました。クリスマスにバスの運転士にプレゼントを渡す少女。それを称賛し、また運転士をいたわる周囲の人。地下鉄の向かいのシートに座って泣いている人にティッシュを持って行く女性。それを静かに称賛する人。図らずもヘイトスピーチの現場に立ち会うことになった人々の抗議。不慮の出来事で亡くなった人のために街中や公園に集まり、キャンドルと花束を供え、祈りを唱える数えきれない人々。

当地では他者の喜び、悲しみなどに極めて素直に呼応し、連帯する人々の姿が印象的で、いつも他人が身近に感じられました。祈りの中でよくその光景があらわれ、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」（ローマ12:15）とのみ言葉を思い出し、「神とともにある」とはこういうことなのだろうかとも感じていました。

私たちの信仰のベクトルは他者に向いています。イエスは自分の権益などお構いなしで、構造的に差別されている人や苦勞している人に積極的にかかわ

ろうとされました。おそらく始終周りの人と気さくに話し、「いいね!」と一緒に喜んだり、あるいはどうにもならない悲しみに同伴したりしていたのではないのでしょうか。

今年の教会のテーマは「福音を伝える」。福音を伝えるということは、先にあげたカナダの素朴な人たちのように（そして日本の善意の人たちのように）、喜びを他者に届け、共有するということでもあります。それも知っている人だけでなく、感情移入しにくい自分から遠くにいる人も含めて。社会にはどうにもならない理不尽なことや不正義があり、それに十分に対応するすべを持たない人がいます。私は、福祉の活動とは不正義に立ち向かいながら、同時に先に示したような人間観でそれぞれの人が必ず持つ強みを十分生かせるように必要に応じて同伴するというのだと考えています。同じような価値観をもとに活動する福祉関連のグループが教会内にはたくさんあります。

これまであげてきた人々の姿は、私たちに対して慣れ親しんだ世界を飛び出し、喜びや苦しみを共有し喜びを伝えるようにと誘っています。あなたは今日、明日、そしてこれから先、どのような喜びを会おう人と分かち合おうとしていますか？

「出て行ったことで事故に遭い、傷を負い、汚れた教会のほうが好きです。」教皇フランシスコ『福音の喜び』49。

Br. 吉羽 弘明
(イエズス会・福祉関連グループ連絡会)

私たち聖イグナチオ教会は、祈りにもとづく使徒的共同体を生きていきます。

現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、環境破壊など、未来に希望を見いださぬ反福音的なものに脅かされています。それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、いつくしみの扉を開いていきます。

私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、貧しい人や弱い人の声を聴き、皆でともに手をたずさえて（日本人も外国人も、若いも若きも）、福音の喜びを分かち合っていく使命を生きていきます。

11月の共同祈願

死者の月にあたり祈ります。

日本の尊い殉教者を始め、
多くの先人の守り抜かれた信仰は、
今も私たちを神様との対話に導いて下さいます。
現代に生きる私たちがその強い信仰をここに留め、
祈りの道を歩むことができますように。

(解説)

殉教者の歩まれた道の厳しさ、守り抜かれた信仰に心打たれます。

天に召され、神様と共におられる人々、特に私たちの身近にいた人々は現世の私たちと神様の間を取り次いで下さるでしょう。

亡くなった方を想いつつ祈ることで神様と対話致しましょう。

「ミッション 2030」 - 福音を伝える⑤

社会の福音化

今年は「福音を伝える」年にあたり、いろいろなことを意識化できればよいと思っています。ミッション促進チームで今年は取り上げていないけれど、福音を伝えることで忘れてはいけない側面があります。福音宣教を英語で表すと、"evangelization"になります。神を知らない人に福音を伝えていくという意味がありますが、それだけでなく「福音化」という訳も可能です。何を福音化するかというと、「社会の福音化」という意味になります。

日本の社会は法律によって秩序がしっかり保たれているものの、福音に反している側面が多々あるでしょう。教会の使命には、福音に反しているものを指摘し、それが福音にかなったものになっていくように社会を変えていく努力をすることも含まれています。フランシスコ教皇が社会のさまざまな問題（経済や政治的なことを含んで）について指摘されるのも福音化を意識しておられるからです。

例えば、今年の6月、真和会主催の講演会で、国際連合食料農業機関（FAO）のボリコ氏から世界の食糧事情について話を伺いました。ごく簡単に述べますと、世界では8億1500万人（世界の9人に1人）が飢餓状態にあります。それに対して、先進諸国では膨大な食料廃棄がなされています（日本だけ

で年間621万トンもの食べ物が無駄に捨てられています）。世界全体の食料ロス・廃棄量の1/4を利用するだけで、世界の飢餓人口を養うことができるのです。もちろんその実現は、政治的・経済的システムの変更まで伴うので、簡単なことでないです。それでも、私たちがこのことを意識し、食料ロスを少しでも減らそうとしていくなれば、社会の福音化につながる貴重な貢献となるでしょう。これは一例にすぎません。社会には多くの問題があり、それに取り組むように呼びかけられています。

イグナチオ教会では、社会の福音化につながるさまざまな活動があります。例えば、「タラ友の会」、「メルキゼデクの会」、「カレーの会」、「四ツ谷おにぎり仲間」、「ステラ・キッズ・カフェ」、「被災地ボランティア派遣支援」などなど、実に多種多様です。教会の公式な活動ではないにしても、信徒の方々がいろいろな分野の活動にかかわっておられることも承知しています。それらの活動をこれからも地道に続けながら、私たち一人ひとりが社会の福音化にかかわる意識をもち、行動できるように心がけていきたいです。

主任司祭 英 隆一朗 sj

西日本豪雨災害ボランティア報告

西日本豪雨災害の募金に協力してくださり、ありがとうございます。その一部は当教会の青年会が実際にボランティアに行く際に、交通費補助として使わせてもらいました（一昨年の熊本地震の被災地ボランティアの際にも若者の交通費の援助のために募金を集めており、その残金と合わせて使わせてもらっています）。

青年会のメンバーは夏から秋にかけて何人も若者がボランティアに出かけました。まだ行く若者がいるので締め切っていないですが、中間報告として、ボランティア活動報告（一部抜粋）をさせていただきます。

私は、8月21日に呉市のボランティアセンターでの所内でのお手伝いをさせていただき、現地以外にもお手伝いできる場所があることを知りました。ボランティアセンターには献品で送られてきた飲食物や装備の備品など様々なものがあり、それらをボランティアに向かう方々へ提供したり、声をかけるお手伝いをしました。ボランティアの受付が終わった後は、備品の片付けや、ボランティアから帰ってきた人たちがアンケートを書くための机のセッティングなどを行い、お昼休憩になりました。午後は、ボランティアから帰ってきた方々の長靴の洗浄の準備と援助を行いました。活動中に心がけるようにと教えていただいたのは、ボランティアから帰ってきた方々への「お疲れ様でした」の声掛けと、体調の確認でした。こまめな声掛けや心配りがボランティアセンターのなかでは欠かさず心がけられていることを知りました。その後、貸出用の長靴や中敷きなどの片付けなどを行い活動は終了しました。現地の活動に比べ、所内での活動は屋内での活動が多い長時間の活動ではありましたが、一日を通して、ボランティアセンターを支えている方々やボランティアに来ている人たちとたくさん関わる機会をもつことが出来ました。災害地のボランティアといえば力仕事メインに思われ、ボランティアには行きたいけど、体力に自信がない、という人もいますので今回の活動を通して、所内での活動もあることをもっと知らせていきたいと思いました。（和田洋子）

僕は今回広島県の呉市に行き、実際のボランティアは音戸という場所で作業をしました。実際に被災地に行くと、現地の状況を見た際驚きました。家があるところが更地になっていたり、家の中が土砂まみれになっているという状況でした。作業は家の中と外の土砂を出すことでした。1チーム7～8人で4チーム合同で作業しました。土砂をバケツに入れる班、バケツを手渡す班、バケツの中の土砂を出す班に分かれました。作業は地道であり、疲れしました。朝10時30分頃から始め、15時前に終了しました。15分作業して、10分休憩のサイクルでした（酷暑のため）。作業が終了したときは土砂の山ができました。僕はその山を見て、約20人ほどで作業をしたけれどこれだけかと思ってしまいました。1日やっただけでは、終わるはずはないけれどショックでした。参加して、確かにこの山を積み上げたけれども、いつ終わるのだろうかという怖さが生まれました（まだまだ膨大な土砂が残っているからです）。僕は今

日参加したら帰ってしまいます。では誰が残りの土砂を運び出すのか。家は近くにはないので、頻繁に来ることはできない。そのためにはどうすればいいのか。それは今回行った経験をまわりの人に話す、ボランティアに興味をもってもらうことが必要だと思いました。また現地に行かなくとも支援することは可能です。ボランティアセンターには、たくさんの物資がありました。水・食べ物・長靴・虫除けスプレーなどが。これらは日本中から送られてきたそうです。現地に行くと直接かかわらなくとも、間接的にかかわる方法があるんだと理解しました。（中村文）

ボランティア終了後、心地よい疲労感と達成感で満たされていました。そして、ボランティアを通して、グループの方と初対面とは思えないほど打ち解けることが出来ました。全国から集い、共に力を合わせ、被災地の為に働けたことは、大変貴重な経験となりました。

今回のボランティアで、被災された方の為に自分ができることは本当に些細なことでした。しかし、多くの方が行動を起こしたら、それは大きな力になるのだという気付きを頂きました。またこれから、この気付きや経験を活かし、ボランティアへ携わっていきます。

ボランティアとして受け入れて下さった、「くれ災害ボランティアセンター」の皆様、快適に過ごさせて下さった「ボランティア宿泊所 くれ」（カトリック呉教会内）の皆様、派遣して下さったイグナチオ教会に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。（川上智園）



豪雨で被害、片づけができなかった保育所で撤去作業（広島・三原）
写真はNHKニュースサイトに掲載されたものです。二人の若者は当教会の秋山光平と青木哲生です。

皆さまの募金によって、小さいながらも当教会は災害支援に貢献しています。若者のパワーに信頼して、これからも歩いていきますので、よろしくお祈りします。

教会黙想会

テーマ 「福音を伝える」
11月23日(金・祝日)
10時～16時 主聖堂

- 10時 「サタン、引き下がれ(マルコ8:33)」
李 相源 神父
- 11時 「福音を伝える=キリスト教の死生観」
田丸 篤 神父
- 12時 休憩
- 13時 「今日のイエズス会と福音宣教」
酒井 陽介 神父
- 14時 「喜びを伝えるために派遣される」
ブラザー 吉羽 弘明
- 15時 ミサ 司式: 英 隆一朗 神父

クリスマスバザー

12月2日(日)

8時30分のミサ終了後～15時30分まで

物品頒布(日用品、手芸品、お菓子など)や
フードコート、また教会案内ツアーもあります。

頒布品としての献品の受付は11月18日(日)までです。

★中古衣料と賞味期限切れ食品は不可。

詳細はポスター、チラシにてご確認ください。

今回のバザー頒布金は自然災害被災地支援のために献金いたします。みなさまのご支援、ご協力をお願いいたします。

クリスマスバザー実行委員会

9月・10月の宣教司牧評議会から

- ・諸般の事情に鑑み、クリスマスミサスケジュールを変更することが承認された。
- ・来年の献堂20周年をどのように迎えるか、この20年間の教会委員長、信徒代表のご意見を聞きながら検討、準備を進めます。

ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel

7:00/12:00/18:00

【日曜日 Sunday】主聖堂 Main Chapel

土曜 18:00/7:00/8:30/10:00/18:00
12:00 (English) / 13:30 (Español)

【月の第1日曜日 1st Sunday】

Main Chapel 15:00 (Việt Nam)
Our Lady's Chapel 12:30 (Português) 16:00 (Polski)
Xavier Chapel 16:00 (Indonesian)

【月の第3日曜日 3rd Sunday】

Main Chapel 15:00 (Việt Nam)
Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

主任司祭: 英 隆一朗

助任司祭: 李 相源
田丸 篤

協力司祭: ヘネロソ・フローレス
ハビエル・ガラルダ
平林 冬樹
酒井 陽介

ブラザー: 吉羽 弘明

シスター: イベッテ・サンチェス
(セントロ・ロヨラ)

ローズ・レミジオ
(ジョン・デ・ブリッド イングリッシュセンター)

2018年 クリスマスミサ

本年は曜日の都合、また来年から23日の祝日が無くなるという変化に対応し、下記スケジュールとなりますのでご注意ください。

- 12月22日(土)
14:00 子どもと家庭のクリスマスミサ
- 12月23日(日)
待降節第4主日(日曜日のミサ時間)
- 12月24日(月)
15:00
17:00
19:00 キャンドルサービス(手話通訳あり)
21:00 フォークミサ
22:30 英語
- 12月25日(火)
7:00 8:30 10:00(手話通訳あり)
12:00 英語 13:30 スペイン語
18:00

財務報告

9月23日(日)「世界難民移住移動者の日」の献金1,051,747円は、日本カトリック難民移住移動者委員会を通じて、幅広く支援に役立てられます。皆様のご協力に感謝いたします。

アルペ神父列福調査

ご存知の方、いらっしゃいますか?

イエズス会日本管区の初代管区長で、同会の第28代総長を務めたベドロ・アルペ神父の列福調査が、イタリアのローマ教区で始まります。

関係各国では聖性の証人を探し、お話しを聞きながら証人候補名簿を作成します。

アルペ神父様を直接知っている方、神父様を知る人からの直接の伝聞証言が出来る方は教会事務室へご連絡ください。

カトリック麴町教会(聖イグナチオ教会)

〒102-0083 千代田区麴町6-5-1

TEL 03-3263-4584 FAX 03-3263-4585

ホームページアドレス: <http://www.ignatius.gr.jp>